

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	最終評価	分析・改善策等
1 生徒一人ひとりの実態把握を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	授業の挨拶等ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C (77.4%)	元気よくあいさつができたという点で課題が残った。生徒に意識させて指導をしなければならない。
	② 無断欠席・遅刻防止のために、家庭との連携を密にするとともに、学校全体として「時間を守る」生活習慣を身につけさせる。	年間遅刻回数10回以上の生徒数が A 25名未満 B 25名～32名 C 33名～44名 D 45名以上	A (23)	ホーム担任を始め、職員全体で指導した結果だと思う。
	③ 多様な生徒がいることを相互に認め合う環境作りに取り組む。	校内研修会の回数が A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回以下	A (5回)	校内研修会を定期考査の午前中に開催。少人数や短時間で行う研修を取り入れた。また、早い時期に新しく赴任した職員に対する研修会を行う。
	④ 人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題に取り組む。	いじめが起きた場合、教職員、カウンセラーなど全員で対応しているという肯定的評価が A 100% B 85%～99% C 75%～84% D 75%未満	A (100%)	全職員で事案に対して対応した。今後も他人ごとにはせず、他の学年や他のクラスという考え方をせず、全職員で対応していく。面倒見の良い学校・先生を目指す。
	⑤ 自転車乗車マナーの向上を通じて、規律を尊重する態度を養う。	年間交通違反指導件数が A 7件未満 B 7件～8件 C 9件～11件 D 12件以上	D (17)	集会等だけでなく、各ホーム等で根気よく指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		今年度の取り組みの説明を聞いて、遅刻防止や挨拶の徹底など学校全体としての指導により、昨年と比べ良くなっている。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		朝の挨拶運動、集会、ST等多くの機会を捉えて規範意識の醸成に努めていく。		
重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	最終評価	分析・改善策等
2 生徒の基礎学力定着に向けたICTの効果的活用やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業法などを学年や教科で共有し、授業力向上を図る。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B (83.7%)	多様な生徒が理解できるよう、学校全体として授業改善に取り組みたい。
	② 年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、課題意識を持って授業改善に取り組む。	互見授業をした平均回数が A 10回以上 B 7～9回 C 4～6回 D 4回未満	B (8.3回)	多くの教員が互いの授業を参観し、授業改善に取り組んだ。参観した際の意見・感想などをより広く共有していきたい。
	③	ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 75%以上 B 70%～74% C 65%～69% D 65%未満	A (96.0%)	プロジェクターやタブレット等に関して、非常に多くの教員が活用している。より効果的に活用できるよう、校内研修等を開きたい。
	④ ワークライフバランスやタイムマネジメントの講習会等を実施し意識付けをする。	ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識した業務に取り組んでいるという肯定的評価が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A (91.0%)	7月調査に比べて、肯定的評価が大幅に増加した。
学校関係者評価委員会の評価		スマホのアプリ「ロイロノート」を使った授業は興味がある。この取り組みをもっとPRしてはどうか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		生徒が主体的に学力向上に取り組む方策として、スマホを使用した授業の研修を行った。より効果的な指導方法を研究していく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	最終評価	分析・改善策等
3 最新の進路情報の提供や同窓会との積極的連携により、社会人としての心構えを学び、早期から進路意識の高揚を図る。	① 3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を、外部人材の助力も得ながら行う。	進路意識が向上した生徒が A 85%以上 B 65%～84% C 45%～64% D 45%未満	B (78.4%)	各学年毎の進路進路ガイダンス、総合的な学習の時間、社会人講話等の実施により、進路意識の向上がみられた。「内高プラス」をより充実させ、一層の進路意識の向上につなげる。
	② ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	就職希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	B (96.3%)	就職希望者27名中、26名が内定（3月末日）。特性を持った生徒に対する、早期からの準備が必要。ハローワーク、職業センター等の関係機関との連携を図り、適切な進路指導を行う。
	③ 外部人材や地域の大学等と連携して、進学の実支援・指導を行う。	進学希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	A (100%)	進学希望者21名中、21名が合格（3月末日）。推薦合格の生徒が多い。一般受験、入学後の学習等を踏まえた補習体制の構築が必要。特性を持った生徒に対する進学指導を早期より計画的に実施する必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		学校で学んだことを、内灘高校を卒業後社会の中で活かしてもらいたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		同窓生人材をさらに多く活用し、地元企業の体験学習の機会を拡大する。		
4 地域から信頼され、必要される学校となるために、地域行事に積極的に参画し、地域社会に貢献する態度を養う。	① 学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	来校者（保護者・地域の方・同窓生）の延べ人数が A 650名以上 B 600名～649名 C 550名～599名 D 550名未満 PTA総会の来校者数が A 50名以上 B 40名～49名 C 30名～39名 D 30名未満	B (647人) B (43人)	内高祭を昨年に引き続き一般開放したことが来校者増につながっていると考えられる。社会人講話の協力者を増やせたのも人数が増えた要因だと考えられる。 PTA総会は土曜日開催としたことで昨年より参加者を増やすことができた。協力的な保護者が増えてきている感があるので、来年度もさらに増やせるような工夫を考えたい。
	② 地域活動へ積極的に参加するとともに、地域と連携した課外活動やボランティア活動を企画・実践する。	地域に出向いて連携した活動の回数が A 30回以上 B 25回～29回 C 20回～24回 D 20回未満 参加生徒の延べ人数が A 1000名以上 B 900名～999名 C 800名～899名 D 800名未満	C (23回) C (879人)	23回のうち約半数である11回が軽音楽部によるもので、軽音楽部への依存度は高い。学校全体で行うという雰囲気を作り出していく必要がある。そういう雰囲気ができてくれば、自ずと数値は向上するであろう、
	③ 地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をPRする。	中学生の参加者数が A 600名以上 B 550名～599名 C 500名～549名 D 500名未満 地域の中学校との交流の回数が A 10回以上 B 8回～9回 C 6回～7回 D 6回未満	A (680人) C (6回)	単発で大人数の交流が多く、継続的に行う交流の機会がなかった。何か新たなものを企画する必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		内灘高校では子ども達のために様々な取り組みをしている。地域の方々にもっと知ってもらいたいと思う。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		HPにアクセスしてもらうためにQRコードやARコードを学校からの配布物や掲示物に載せて、内灘高校の取り組みを多くの人に知ってもらえるようにする。		